

シングルサインオン実証実験最終報告

千葉大学総合メディア基盤センター
千葉大学附属図書館

1. はじめに

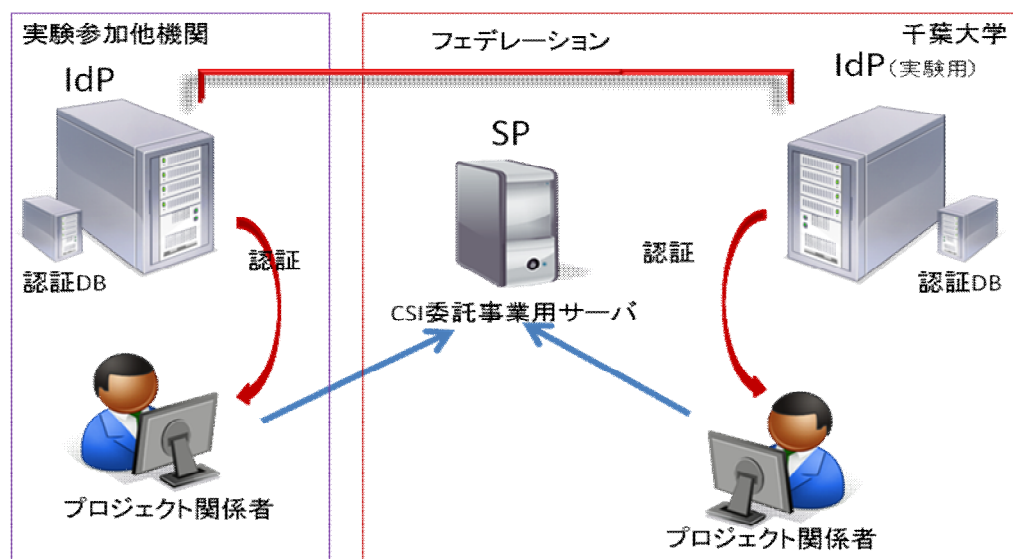
千葉大学では、平成 20 年度、国立情報学研究所（以下 NII）が実施した「UPKI 認証連携基盤によるシングルサインオン実証実験」に参加し実証実験を行った。これにより今後、本学で遂行する予定の認証基盤整備について一定の知見を得ることができた。以下に報告する。

2. 実証実験の概要

実証実験では、「IdP 連携実験」に参加し、IdP、認証データベース、SP を設定することとした。IdP は、実験用のサーバを用意し Shibboleth(IdP)のインストールを行った。認証 DB は既存のものベースに参照の仕組みを構築することとした。

また、SP は、NII の委託事業として採択された「機関リポジトリ評価のための基盤構築」（次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業学術機関リポジトリ構築連携支援事業 領域 2）で使用するサーバとし、プロジェクト参加かつ SSO 実証実験参加大学とフェデレーションを組んで関係者からのアクセスを許可する仕組みを作ることとした。SP の構築は、インストールマニュアルに記載された事項の間違いなどの影響で、構築に手間取り、残念ながら最終状態には至らず、接続の確認ができないまま終わった。

実験の環境を図式すると次のようになる。



3. 実証実験を終えて

今回、実験にあたってソフトウェアのインストール等を行ったり、運用を検討したりしたことで、次のような知見を得た。

IdP 構築自体は難しくないが、フェデレーションのために必要な属性は、既存の認証 DB にはないものであり、それらの設定に人手を要した。今後、サービスを展開するにあっても必要とされる属性の登録にどれくらいの労力が必要となるかが課題となる。今回、実証実験のために SP 構築を試みたが、SP については、当面、本学では需要はないものと思われる。

NII が取り組んだ実証実験の中で現実化してきた電子ジャーナルの認証フェデレーションについては期待が高い。この件について学内で報告したところ、学術研究活動を支援するために非常に有益であると評価が高かった。

4. 今後の取り組み

前述したように、電子ジャーナルの認証フェデレーションについては、導入すれば研究者、学生等構成員にとって利便性が大きく向上し、24 時間どこからでも利用可能といった資源の有効活用の面でも成果が期待されることから、平成 21 年度の試行運用への早い段階での参加が学内で承認された。これを受けて、次年度早期に電子ジャーナル利用のための IdP を立ち上げ、管理・運用体制の整備を図る予定である。

また、今後、千葉大学では、学内認証基盤の整備を予定しているが、Shibboleth 認証によるシステムの運用実績を踏まえ、認証基盤の一部に組み込むことも視野に入れている。